

一般質問

令和3年度 12月定例会

農産物の出荷環境改善を

安部 丘 議員



Q 福祉の未来予想図作成は急務

2年前に「高齢者福祉の方向性」を問うた。当時町長は「本町福祉の未来予想図を描くことが肝要で、第二次総合振興計画後期計画に反映する」と答弁した。しかし2年経つが状況は変わっていない。町が掲げる『日本一健康福祉のまち』を実現する第1歩がこの『未来予想図』だ。

A 副町長をトップに進める

町長塚原隆昭

介護職のみならず給食調理など、全ての部門で人材が不足。合わせて老朽化が進んだ施設の建て替えの問題。法人統合の話もあり、本



特別養護老人ホーム あかぎの里

当に急ぐ課題だ。

10月に副町長と保健福祉課長が全事業所を訪問した。事業所のトップからは、サービスの継続や地域を支えたいという想いを感じた。町としても、これを形にすべきと考えており、副町長をトップとしたプロジェクトチームを立ち上げ、早急に検討を進める。

Q 放課後の居場所 事業を問う

行政への住民参加を促すためには、役場が持つ情報をわかりやすく整理して、問題点を示した上で複数の案を周知する必要がある。放課後子ども教室と児童クラブの違いがわかる資料を配布し、意見交換会の開催を求める。また、地域力を高める目的のある子ども教室において、どのように地域住民の協力を得て体験・学習支援を実施するのか。



放課後子ども教室とムラサキキッズのコラボイベントの様子

A 放課後子ども教室の充実を

教育長 大谷 哲也

令和4年度に向けて「放課後子ども教室」を充実するよう検討を進めている。今後、資料を提示し、利用者の声を聞く場を設けた。地域住民の協力については、来島の放課後子ども教室に、来島公民館の「ムラサキキッズ」とコラボした軽スポーツを取り入れたり、公民館を通じて文化団体との交流ができないものかと思案している。他の地区でも体験メニューが実現できるように関係者と協議したい。



Q プレーパーク どう思うか

11月23日に開催された公園整備に関する意見交換会で、参加者から自然の中で子どもが遊びを自分で考える場(プレーパーク)を作ってほしいという声があった。町の魅力を生かし、課題解決にも繋がるアイデアだと思ふがどうか。

A 公園整備への検討

町長塚原隆昭

農林大学校林業科の学生からプレーパークの提案があった。日頃当たり前に感じている自然環境そのものが、子どもにとって最大の遊び場であるということに改めて気づいた。この提案は、ひと・もの・こと、という地域資源豊かな飯南町に本当に適したアイデアだと感じた。ベテラン保育士も自然と触れ合うことの大切さを述べていた。公園整備の1つのアイデアとして検討する。



おokayamaプレーパークにて

Q 住民主体の公園を

飯南町は住民主体のまちづくりを推進している。行政が考え、与える公園ではなく、プロジェクト(検討委員会)を通してみんなで考え、みんなで作り上げる、みんなの公園にしないか。

A 意見もらい進める

町長塚原隆昭

今回の意見交換会だけでなく、たくさんの方から引き続きご意見をいただき進めていきたい。進捗をみながら飯南町にふさわしい公園整備を進めていく。

Q 地理的ハンデ克服への支援を

新型コロナウイルスの影響で、トマトなど農作物の一部も価格が下落した。経営に不安を抱える園芸農業者も多く、町独自の直接支援が望まれる。

県内外の知人や友人、インターネット等のチャネルを使い、通信販売を始められた方々がいる。新鮮かつ安心・安全な商品は消費者に喜ばれるが、送料が課題。ひとつの事業者でまとめて

A 市場開拓と 流通の効率化で

町長塚原隆昭

安全で良質な農産物を知ってもらう方法として直販は有効な手段だが、指摘のとおり送料がかかる。

J A雲南地区本部がインターネット通販を行ったが、鮮度維持や競合他地域との差別化が難しく、思った程の成果はなかったと聞く。観光協会でも、町外在住の関



また、関係人口との関係深化は地域づくりに繋がるうえ、ブランド形成にも有効だ。町長の考えを問う。

係者を対象に通信販売を試行したが、同様の結果であった。このことから農産物の個別通販は課題があると認識している。町としては、有利販売が期待できる市場開拓と流通の効率化が大切と思っている。